

## 奥ハチ高原におけるアカエゾゼミの採集記録

森 和 夫

アカエゾゼミ *Tibicen flammatus* Distant は、県下においては但馬の氷ノ山や扇ノ山等の山地に産するが、記録が少ないようである。

1993年8月21日の神戸生物クラブ主催の鑑定会において、谷口博先生が御持参された個体がアカエゾゼミであったので報告する。

植物採集に行かれた際、手づかみにて採集されたものである。標本は、新鮮なものであり、御伺いしたデータは下記の通りであった。

<採集データ>

- ・兵庫県美方郡美方町新屋  
奥ハチ高原スキー場 (alt, 800~900m)
- ・9, VⅢ, 1993, 1♀
- ・谷口博先生採集 (標本は筆者が保存)

未筆ながら、貴重な標本を御恵与下さった谷口先生に、厚く御礼申し上げます。

## アカシジミの産卵行動について

近 藤 伸 一

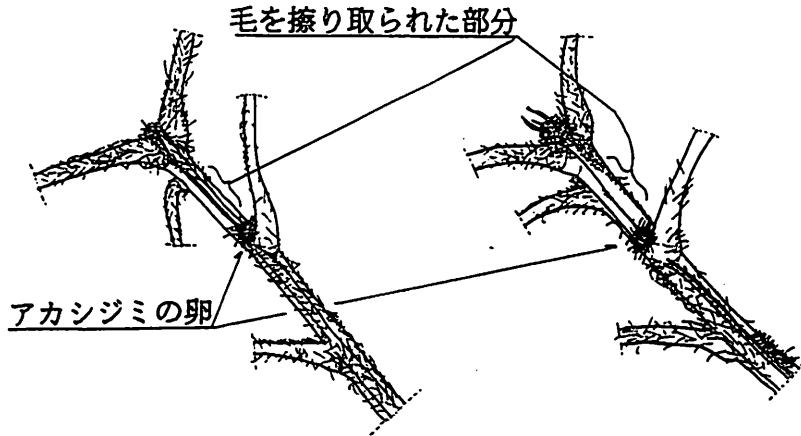
1992年6月6日17時過ぎに、加古川市志方町内でアカシジミがアラカシの小枝に産卵するのを観察した。

アカシジミはアラカシの枝先の葉にとまると、翅を下にして、あおむけにぶら下がる恰好で、葉から小枝に移動して、腹部を折り曲げ、小枝と葉の分岐点にあつという間に産卵し、小枝にしがみつくように脚を固定したまま、腹部の曲げ伸ばしを丹念に繰り返す。アラカシの若い枝に生えている毛を腹部で卵に擦り付け始めた。始めの頃見え隠れしていた白い卵は、すぐにアラカシの茶色の毛で覆われてしま

ったが、なお腹部の曲げ伸ばし動作を続け、産卵してから3分間で終了した。

擦り付けを終えたアカシジミは、すぐに反転して、ぶら下がる恰好で枝先の葉まで戻り、落ちるように枝を離れ、30cm下の枝先の葉に止まり、またぶら下がる態勢で、葉から小枝まで歩き、ビデオテープの再生を見るように全く同じ動作で産卵、擦り付けを行い、再び枝先の葉に戻り、葉の裏で約10分間静止して飛び去った。

図1



アラカシの樹高は約3m、開けた空間（墓地）に新芽を勢いよく伸ばしており、最初に産卵した枝の地上高は1.8m、2回目は1.5mであった。当日はうす曇りの蒸し暑い日で、産卵行動の間、観察するために、顔を約30cmまで近づけていたが、アカシジミは全く気にすることなく一連の産卵行動を行った。

産卵された2本のアラカシの若い枝は、図のように卵の上部の毛がアカシジミの腹部で擦り取られており、卵は見事にアラカシの茶色い毛で覆われ、枝の一部にしか見えなかった。